

明治42年5月の洪水

『ところ文庫30 常呂川』（平成26年3発行）から転載・編集

明治42年5月7日から9日にかけて低気圧の通過による降雨と融雪によって大水害に見舞われ、同年5月20日付けの「北海タイムス」によると

「常呂村は常呂川・ライトコロ川は平素より1丈あまり増水し、土佐原野の一部を除く他の川水が氾濫、まったく洋々たる大海に變じ、一時はものすごきありさまなりしが、浸水家屋は手師学全戸数31戸の内27戸、太茶苗53戸全戸、常呂148戸の内92戸、川沿173戸の内168戸、鐺沸405戸の内321戸、総浸水家屋661戸にして、岐阜部落のごときは1丈2尺の増水にて家屋はまったく水底に没し、その被害程度ももって想像に難しからざるが、警察、役員、有志らの多大なる尽力にて幸いにも人畜に死傷を出さず、ようやく避難せしめたる。

（中略）

今回の道路決壊は約8千間に及び、浸水反別は1千530余町、浸水反別の損害約3万円に達するならんと。

なお手師学、太茶苗はあるいは流失家屋、人畜死傷者などありとの説あるも交通途絶のため不明なり」とあります。

さらに5月21日付けの「北海タイムス」には水害後報として

「常呂郡常呂村は、土佐原野の一部浸水、幸いに損害少なく、岐阜・川沿のごときは凹地1丈3尺余りに達したる所ありたれども流失家屋及び人畜に死傷なし。浸水家屋は260戸、浸水畑地883町3反5畝歩、損害2万円に達するならんという。同郡太茶苗村は、今回、水害被害中もっとも甚大にして浸水畑地97町1反1畝歩の内、約半数は2尺くらいに土地の流失あり。ほとんど新墾同様なる荒れ地に變じ、同村53戸全部浸水し、はなはだしきは1丈2尺増水したる箇所あり。流失家屋1、倒屋1。村民はいずれも付近の高地に避難し、ようやく生命だけとりとめたるも、一帯は激流で舟も使えず、中には2日間を絶食したる者あり。浸水6日間にわたり泥水をもって飲料水に用い、フキの根、若草などにて飢餓を癒したる者あり。

常呂郡鐺沸村ライトコロ川及び佐呂間川氾濫のため、浸水家屋321戸、被害反別482町2反8畝歩損害1万1千円に上るよし。出水後ただちに学校及び寺院に避難したるため人畜死傷などなし。

手師学村は浸水家屋30戸、被害反別61町3反9畝、損害1千200円余り」とあります。

*注：『岐阜県開基百年記念史』には、「明治42年5月、岐阜地区方面大洪水、22日まで

（雪解け水の増水による）」と記載。